

# 施策目標個票

(国土交通省2-29)

|                  |   |   |
|------------------|---|---|
| 施策目標             | 道路交通の円滑化を推進する                               |   |
| 施策目標の概要及び達成すべき目標 | 渋滞対策をはじめとした交通の快適性・利便性を向上することで、道路交通の円滑化を推進する |   |
| 評価結果             | 目標達成度合いの測定結果                                | (各行政機関共通区分)<br>③相当程度進展あり<br><br>(判断根拠)<br>主要な業績指標である115については、令和2年度までに目標を達成した。主要業績指標116については、目標年度において目標値に達しなかったが、概ね目標に近い実績を示したため、全体として「③相当程度進展あり」とした。                      |
|                  | 施策の分析                                       | 渋滞対策の推進をはじめとした交通の快適性・利便性の向上に向け、道路網の整備、現道路拡幅、及びバイパス整備を効果の高い箇所に対し重点化して実施するとともに、開かずの踏切等に対して、連続立体交差事業等の抜本的な対策を、スピードアップの工夫をしながら実施してきたところであり、道路交通の円滑化推進に向け、順調かつ確実に推移しているところである。 |
|                  | 次期目標等への反映の方向性                               | 今後も引き続き、渋滞対策の推進をはじめとした交通の快適性・利便性の向上をはかり、道路交通の円滑化に資する政策を推進する。また、第5次社会資本整備重点計画に掲げる目標を踏まえ、今後業績指標の見直しを検討する。   |

| 業績指標 | 115 踏切遮断による損失時間(*)      | 初期値            | 実績値            |                |                |                |                | 評価 | 目標値            |
|------|-------------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----|----------------|
|      |                         | H25年度          | H28年度          | H29年度          | H30年度          | R1年度           | R2年度           |    | R2年度           |
|      |                         | 約123<br>万人・時/日 | 約121<br>万人・時/日 | 約120<br>万人・時/日 | 約119<br>万人・時/日 | 約118<br>万人・時/日 | 約117<br>万人・時/日 | A  | 約117<br>万人・時/日 |
|      | 年度ごとの目標値                |                |                |                |                |                |                |    |                |
| 業績指標 | 116 都市計画道路(幹線街路)の整備率(*) | 初期値            | 実績値            |                |                |                |                | 評価 | 目標値            |
|      |                         | H24年度          | H28年度          | H29年度          | H30年度          | R1年度           | R2年度           |    | R2年度           |
|      |                         | 61.7%          | 64.4%          | 64.9%          | 65.3%          | 65.7%          | 66.1%          | B  | 66.5%          |
|      | 年度ごとの目標値                |                | -              | -              | -              | -              | -              |    |                |

| 施策の予算額・執行額等【参考】 | 区分          | H30年度      | R1年度    | R2年度    | R3年度    | R4年度要求額 |
|-----------------|-------------|------------|---------|---------|---------|---------|
|                 |             | 予算の状況(百万円) | 当初予算(a) | 189,827 | 193,392 | 220,317 |
| 補正予算(b)         | 11,232      |            | 32,772  | 52,844  | -       |         |
| 前年度繰越等(c)       | 76,244      |            | 56,341  | 113,974 | -       |         |
| 合計(a+b+c)       | 277,303     |            | 282,505 | 387,135 | 224,403 |         |
|                 |             | <0>        | <0>     | <0>     | <0>     |         |
|                 | 執行額(百万円)    | 220,346    | 168,468 |         |         |         |
|                 | 翌年度繰越額(百万円) | 56,341     | 113,974 |         |         |         |
|                 | 不用額(百万円)    | 616        | 62      |         |         |         |

|                 |                         |
|-----------------|-------------------------|
| 学識経験を有する者の知見の活用 | 国土交通省政策評価会(令和3年6月25日開催) |
|-----------------|-------------------------|

|       |     |        |   |          |        |
|-------|-----|--------|---|----------|--------|
| 担当部局名 | 道路局 | 作成責任者名 | 道路局路政課<br>(課長 高山 泰)<br>都市局街路交通施設課<br>(課長 荒川 辰雄) | 政策評価実施時期 | 令和3年8月 |
|-------|-----|--------|---|----------|--------|

業績指標 115  
踏切遮断による損失時間\*

評価

A

目標値：約117万人・時/日 (令和2年度)  
実績値：約117万人・時/日 (令和2年度)  
初期値：約123万人・時/日 (平成25年度)

(指標の定義)

踏切遮断による待ち時間がある場合と対策後の踏切通過に要する時間の差  
開かずの踏切等の遮断時間による損失時間

=踏切遮断による待ち時間がある場合に踏切通過に要する時間 (注) - 対策後に踏切通過に要する時間

(注) 全国での1日あたりの踏切通過交通量 (人数) ×踏切での待ち時間

(目標設定の考え方・根拠)

今後予定される連続立体交差事業や道路の立体化により削減が見込まれる開かずの踏切等の踏切遮断による損失時間により設定。

(外部要因)

地元調整の状況、踏切道の交通量等

(他の関係主体)

地方公共団体 (事業主体)、鉄道事業者

(重要政策)

【施政方針】

【閣議決定】

【閣決 (重点)】

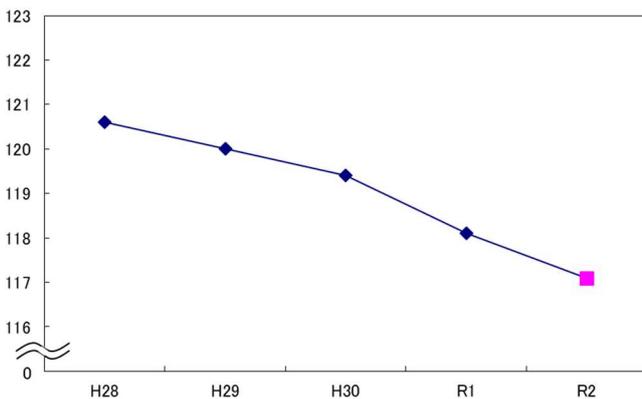
【その他】

過去の実績値

(年度)

| H28             | H29             | H30             | R1              | R2              |
|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 120.6<br>万人・時/日 | 120.0<br>万人・時/日 | 119.4<br>万人・時/日 | 118.1<br>万人・時/日 | 117.0<br>万人・時/日 |

(単位) 踏切道における損失時間



主な事務事業等の概要

開かずの踏切等の解消

- ・「開かずの踏切」等による渋滞の解消や踏切事故防止のため、連続立体交差事業等を推進する。(◎)

予算額：

道路整備費17,858億円(国費)及び社会資本整備総合交付金8,713億円(国費)等の内数(平成31年度)

道路整備費20,472億円(国費)及び社会資本整備総合交付金7,627億円(国費)等の内数(令和2年度)

(注) ◎を付した施策項目は、社会資本整備重点計画にその概要が定められた社会資本整備に係る施策に関するものである。

## 測定・評価結果

### 目標の達成状況に関する分析

#### (指標の動向)

・連続立体交差事業等により平成30年度から、開かずの踏切等約198箇所を解消しており、平成30年度の実績値約119万人・時/日に対して、令和2年度の実績値は約117万人・時/日となり、目標値の約117万人・時/日を達成した。

#### (事務事業等の実施状況)

・開かずの踏切等に対し、連続立体交差事業や道路の立体化等により、踏切除却を行う抜本的な対策について工程の工夫等のスピードアップを図り推進している。

### 課題の特定と今後の取組みの方向性

・最終年度の集計を行い、目標値の117万人・時/日を達成したことから、Aと評価した。

・引き続き、開かずの踏切等の解消を推進し、踏切遮断による損失時間削減を推進していく必要があるため、第5次社会資本整備重点計画（令和3年5月28日閣議決定）において、道路ネットワークの構築の効果等も踏まえ、98万人・時/日（令和7年度）と目標を設定した。本業績指標についても、今後同計画を踏まえ見直しを検討することとする。

## 担当課等（担当課長名等）

|      |             |            |
|------|-------------|------------|
| 担当課： | 道路局 路政課     | (課長 高山 泰)  |
| 関係課： | 都市局 街路交通施設課 | (課長 荒川 辰雄) |
|      | 鉄道局 施設課     | (課長 森 信哉)  |

業績指標 116

都市計画道路（幹線街路）の整備率\*

評価

B

目標値：66.5%（令和2年度）  
 実績値：66.1%（令和2年度）  
 初期値：61.7%（平成24年度）

（指標の定義）

都市内においてまとまった交通を受け持つとともに都市の骨格を形成する都市計画道路（幹線街路）の整備については、都市における交通の快適性、利便性の向上はもとより、都市の防災性等、都市機能全般を向上させるものであり、都市計画道路（幹線街路）の計画延長に対する完成延長の割合を指標として設定。

<分母>都市計画道路（幹線街路）の計画延長

<分子>都市計画道路（幹線街路）の完成延長

（目標設定の考え方・根拠）

都市内においてまとまった交通を受け持つとともに都市の骨格を形成する都市計画道路（幹線街路）の整備については、都市における交通の快適性、利便性はもとより、都市の防災性等、都市機能全般を向上させるものであり、都市計画道路（幹線道路）の計画延長に対する完成延長の割合を目標値として年0.6%の伸びを確保するように設定。

（外部要因）

なし

（他の関係主体）

地方公共団体（事業主体、計画主体）、民間事業者（事業主体）

（重要政策）

【施政方針】

なし

【閣議決定】

なし

【閣決（重点）】

社会資本整備重点計画（平成27年9月18日）「第2章に記載あり」

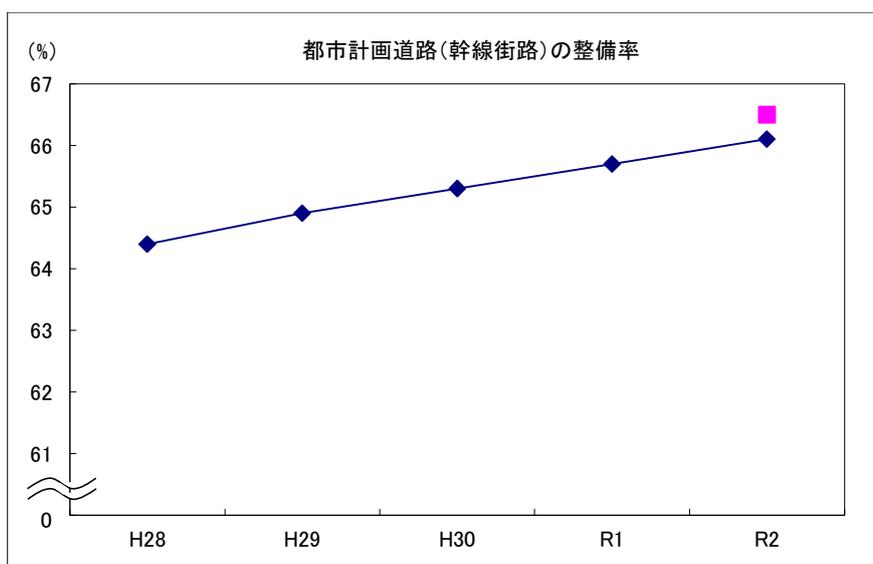
【その他】

なし

過去の実績値

（年度）

| H28  | H29   | H30   | R1    | R2    |
|------|-------|-------|-------|-------|
| 64.4 | 64.9% | 65.3% | 65.7% | 66.1% |



## 主な事務事業等の概要

### ・都市計画道路（幹線街路）の整備

地域において安全で快適な移動を実現するため、通勤や病院等の日常の暮らしを支える生活圏の中心部につながる道路網や、救急活動に不可欠な道路網の整備、隘路の解消を図るため現道拡幅及びバイパス整備等を推進し、地域内の移動円滑化を図る（◎）

### 予算額（事業費）

道路整備費14,851億円及び社会資本整備総合交付金等42,073億円の内数（平成31年度当初予算）

道路整備費18,836億円及び社会資本整備総合交付金等34,797億円の内数（令和2年度当初予算）

（注）◎を付した施策項目は、社会資本整備重点計画にその概要が定められた社会資本整備に係る施策に関するものである。

## 測定・評価結果

### 目標の達成状況に関する分析

#### （指標の動向）

平成29年度以降、年間約220kmの都市計画道路の完成で推移しているが、目標年度の令和2年度実績において目標値を達成しなかった。

#### （事務事業等の実施状況）

地域内の移動円滑化を図るため、日常の暮らしを支える生活圏の中心部につながる道路網や、救急活動に不可欠な道路網の整備、狭隘の解消を図るための現道拡幅及びバイパス整備等を推進している。

### 課題の特定と今後の取組みの方向性

平成29年度以降、順調に整備延長は増加し、おおむね目標値近くの実績が得られているが、目標値に達しなかったため、B評価とした。課題として、事業期間の長期化している事業が存在していることがあるため、集中的な用地取得や工事実施を進めることで事業効果の早期発現を目指していく必要がある。また、都市計画決定後、長期間、整備に未着手の路線も多く存在しており、必要性を検証したうえで、都市計画道路網の見直しに取り組むことが必要である。

今後も都市計画道路の着実な整備促進に向け、引き続き都道府県等に対し支援・助言等を行う。

なお、引き続き施策を推進する必要があるため、第5次社会資本整備重点計画（令和3年5月28日閣議決定）において、直近の動向等を踏まえて68.5%（R7年度）と目標設定した。本業績指標についても、今後同計画を踏まえ見直しを検討することとする。

## 担当課等（担当課長名等）

担当課：都市局街路交通施設課（課長 荒川 辰雄）

関係課：都市局都市計画課（課長 堤 洋介）